


分野	41	市街地	通番 72
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標		ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	阪急長岡天神駅周辺整備事業		会計	款	項	目	415,026,817	まちづくり政策室
			一般	8	4	1		
事業の概要								
長岡天神駅周辺まちづくり協議会と調整しながら、阪急長岡天神駅周辺整備基本計画を実現するため、地元合意形成を図りつつ、事業に着手します。 また、京都府や鉄道事業者と共に、連続立体交差事業の事業化を推進します。								


令和3年度の取組								
D (取組)	指標①	東地区市街地整備事業の進捗					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の策定(令和元年度)	目標	暫定広場の検討	暫定広場の整備工事・完成	南エリアの検討	南エリアの検討	南エリアの検討	
		実績	暫定広場の検討					
	指標②	西地区市街地整備事業(補助幹線道路・駅前広場)の進捗					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の策定(令和元年度)	目標	事業の検討	事業の検討	事業着手	事業推進	事業推進		
	実績	事業の検討						
<ul style="list-style-type: none"> 東口暫定広場の設計にあたり、10月に隣接住民の声を聞く意見交換会や近隣住民との事業検討会、11月～12月にアンケート調査などを行い、暫定広場の素案を取りまとめました。 西地区の市街地整備については、10月に事業検討会、11月に権利種別ごとの意見交換会を実施し、まちづくりの将来像を検討しました。 						西地区事業検討会		
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		鉄道三駅乗降客数	新型コロナウイルス感染症の影響により全ての駅で乗降客数が大幅に減少しました。	187
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 連続立体交差事業の影響を受ける駅東地区と影響の少ない駅西地区では、事業の進め方が異なることから、東地区では暫定駅前広場や街区形成の調査など段階的整備(ステップアップ事業)を進めました。 駅西地区では、補助幹線道路や駅前広場の整備と、土地の高度化・集約化も含めた一体的な市街地整備手法について地権者の方と意見交換を行いました。 	
課題等	関係権利者及び関係機関が多岐にわたる事業であり、それら関係者の理解と合意なしには進められない事業なので、丁寧な説明と粘り強い交渉により事業を具体化していく必要があります。			

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td>東口暫定広場の整備工事を行うとともに、西地区においては関係権利者との事業検討会や個別面談を行い、まちづくり将来像を策定します。</td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	東口暫定広場の整備工事を行うとともに、西地区においては関係権利者との事業検討会や個別面談を行い、まちづくり将来像を策定します。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	東口暫定広場の整備工事を行うとともに、西地区においては関係権利者との事業検討会や個別面談を行い、まちづくり将来像を策定します。				

分野	41	市街地	通番 73
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標		ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	新庁舎等建設及び周辺整備事業		会計	款	項	目	941,820,087	公共資産活用推進室
			一般	2	1	5		
事業の概要								
市庁舎の建替工事について、工事・引越・解体を繰り返す工程を効率的にかつ安全に推進します。併せて、周辺地域の整備について、関係部署・機関と連携して内容の確認や工程の調整を行います。また、付加機能(産業文化会館及び保健センター的機能)及び、にぎわい施設を整備し、相乗効果によるにぎわいの拠点を創出します。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	新庁舎建設及び周辺整備事業における進捗				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	—	目標	・1期庁舎建設工事 ・西側道路整備	・1期庁舎完成 ・西側道路供用開始	・東棟、南棟解体 ・2期庁舎建設着手	・2期庁舎建設工事	・2期庁舎完成
		実績	・1期庁舎建設工事着手 ・西側道路整備着手				
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月より着工した新庁舎の建設工事について、1期庁舎部分の工事を進めました。 大型車両の搬出入が多数見込まれる際は一部一方通行の規制解除を行い、誘導員を増員するなど、渋滞回避の対策を行いました。 来庁者の動線変更や工事進捗についてホームページで示したり、庁内の案内掲示を強化し、混乱回避に努めました。 西側道路整備の1期工事に着手しました。 					新庁舎イメージ図 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 1期庁舎部分の建設工事として、地盤改良工事・基礎及び地上部分の躯体工事などを進めました。 供用開始に向けた準備として、新規備品や移転計画等について検討・具体化を図りました。 	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 工事スケジュールの遵守に向けて施工業者と密に連携し、工程管理の徹底を図る必要があります。 来庁者や市民に対して、工事に関する内容や来庁者の動線案内など、情報提供や安全確保に努める必要があります。 不測の事態が発生した場合には、来庁者や各関係機関への周知を徹底して安全確保を行い、事態の早期収束を図る必要があります。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当		<ul style="list-style-type: none"> 施工業者と定期的な打合せ等を通じ、工事を安全かつ円滑に進めます。 工事のスケジュールや内容、来庁者の動線変更等については、広報紙やホームページの活用及び周辺住民へのチラシを配布し、周知を徹底します。 新庁舎において市民サービスの向上や業務効率の改善等につながる機能導入について、庁内関係各課と協議を行います。

分野	41	市街地	通番 74
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標		ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	長岡京駅前線整備事業		会計	款	項	605,752,041	まちづくり 政策室
			一般	8	4		
事業の概要							
現在施行中の第4工区(223m)について、引き続き事業の進捗を図ります。							


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	長岡京駅前線第4工区の事業進捗				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	第4工区の用地 買収率38% (令和2年度)	目標	工事着手	工事推進	工事完成	—	—
		実績	第4工区の用地買収率 61%				
<ul style="list-style-type: none"> ・用地買収に必要な物件調査を実施し、権利者と協議を重ね用地買収を進めました。 ・買収済みの用地につき、埋蔵文化財調査や歩行者の安全を確保するための仮歩道の整備を行いました。 ・長岡天神駅周辺整備の計画と整合を図るため、電線共同溝の修正設計を行いました。 					長岡京駅前線(第4工区) 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		市街歩行者数 (アゼリア通り・天神通り)		平成25年12月の阪急電鉄西山天王山駅開業を受け、長岡天神駅から西山天王山駅へ利用者が遷移するとともに、歩行者数が減少傾向にあります。	188
	達成度 C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度に事業認可を受け、測量を経て用地買収を進めてきました。被補償者の移転先の選定の難航や、新型コロナウイルス感染症の影響で権利者との交渉機会の制限があったものの、一定の進捗を図ることができました。 		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・被補償者の移転先の選定は今後の生活再建に直結するため、慎重に対応する必要があります。用地買収に時間を要する要因となっています。 				

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1:計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> ・第4工区の早期供用開始を目指し用地買収を推進していきます。 ・用地買収の進捗に応じ暫定的な整備を行うことも検討し、早期事業効果発現を目指します。

分野	41	市街地	通番 75
施策	411	中心市街地整備の推進	
5年後の目標		ひと中心のにぎわいのあるまちをコンセプトに阪急長岡天神駅周辺整備基本計画の実現に向け、具体的な整備に着手する。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	JR長岡京駅関連整備事業		会計	款	項	目	20,638,200	道路・河川課
			一般	8	2	2		
事業の概要								
<p>駅利用者の市民や乗降客に安全・快適に利用していただくため、東口駅前広場のリニューアル工事を実施します。</p> <p>また、人々が集い、語らう場となる東口駅前広場を検討します。</p>								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	JR長岡京駅東口駅前広場の整備				単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	詳細設計 (令和2年度)	目標	工事着手	工事推進	工事完了	供用開始	利用状況検証
		実績	工事着手				
<p>・詳細設計が完了し、工事着手しました。その1工事として、南側広場撤去及び仮設歩道設置工事を完了しました。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<p>・詳細設計が完了し、整備工事を3つに分けて実施する計画のうち、その1工事となる仮設歩道設置が完了しました。引き続き、ロータリー工事等となるその2工事、舗装・サイン工事等となるその3工事を進めていきます。</p>
課題等	<p>・東口駅前広場をご利用いただきながらの工事となるため特に安全に配慮すること、また公民連携による賑わい広場整備が課題となります。</p>			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<p>・令和3年度より引き続き、その2及びその3工事となる東口駅前広場の整備工事を実施します。</p> <p>・賑わい広場整備については、制度を活用し、地元等の意見を反映しつつ、公民連携を検討します。</p> <p>・太陽光パネルと蓄電池を組み合わせることにより、駅前広場の照明電力等を賄い、ゼロカーボン化を進めます。また、蓄電池を利用し停電時での対策も実現します。</p>

分野	41	市街地	通番 76
施策	412	調和のとれた都市形成	
5年後の目標		住・工・商の計画的な土地利用の上で、高い生活利便性を実現し、良好な都市空間が形成されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	良好な住環境の推進		会計	款	項	目	3,149,992	都市計画課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
引き続き、まちづくり条例の見直しを行い、老朽化や耐震不足のマンション等の建て替えの促進を図り、また、高齢者世帯、子育て世帯、単身世帯など、幅広い世帯に選択される良好な住環境を誘導し、定住促進を図ります。 建築紛争の予防と調整を行い、まちづくり協議の円滑化を図ります。								


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	まちづくり条例及び施行規則の見直し					単位	—
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	平成6年制定、 令和2年最終改正	目標	基準見直し項目の整理	基準見直し項目に係る調査・検討	基準見直し項目について審議	まちづくり条例及び施行規則の改正	まちづくり条例及び施行規則の運用	
		実績	基準見直し項目の整理					
・条例及び施行規則の基準等について、実情に即したのものになっているのか、見直しを行う必要がある項目の洗い出しを行いました。					長岡京市のまちなみ 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・条例及び施行規則の基準等について、公園・緑地費負担金や駐車場設置基準などの見直しが必要な項目の整理をしました。	—
	課題等	・ライフスタイルの多様化や住宅事業等の変化により、誘導居住水準についても検討していく必要があります。			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	・見直しが必要な項目について、他市町村の状況や社会的ニーズ等を調査し、改正に向けて方向性を取りまとめます。

分野	41	市街地	通番 77
施策	412	調和のとれた都市形成	
5年後の目標		住・工・商の計画的な土地利用の上で、高い生活利便性を実現し、良好な都市空間が形成されている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	空き家対策事業		会計	款	項	目	91,180	都市計画課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
<p>空き家等対策計画に基づき、空き家の発生抑制のために空き家所有者やその予備軍となる高齢者等に対して啓発するとともに、空き家行政プラットフォームや空き家バンクの運用により、空き家に関する課題の解決や、空き家の流通、利活用を促進します。</p> <p>空き家等対策の推進に関する条例に基づき、所有者へ空き家の適切な管理を促すことで生活環境の保全を図り、市民の安全・安心を確保します。</p>								


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	空き家の苦情是正率				単位	%	
	76(H28-R1年度平均)	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標		80	80	83	85	85
		実績		68				
<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった空き家の所有者に対して、適正管理のお願い文書を送付しました。 ・是正されているかどうか、現場の確認を行いました。 					空き家情報冊子 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		市内空き家数		少子高齢化により、住宅供給過剰や住み替え等による空き家の件数は、今後増加すると思われます。	187
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・苦情があった空き家所有者に対して、適正管理のお願い文書を送付し、草木の越境などの植物に関する苦情についてはほぼ是正されました。	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・外壁や屋根など建物本体への苦情は、対応されるまで時間を要する傾向が高いため、苦情内容の割合によっては是正率が上がりにくいことがあります。 ・当事者間での解決が望ましいが、空き家所有者と空き家の近隣住民との連絡先の交換が進まないことが多くあります。 				

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動) 1: 計画通りに進めることが適当	・高齢者福祉施設などへのチラシの配架により、空き家の発生抑制や管理不全空き家の発生抑制の啓発を継続していきます。

分野	41	市街地	通番 78
施策	413	都市機能の再創造	
5年後の目標		人の流れをまちに誘導し、新たな交流とにぎわいを生み出している。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	コンパクトシティ推進		会計	款	項	12,277,566	まちづくり 政策室
			一般	8	4		
事業の概要							
阪急西山天王山駅周辺地区、都心ゾーンにおける都市再生整備計画事業の推進及び次期計画の検討を進めます。また、第二次立地適正化計画を策定します。							

令和3年度の取組							
D (取組)	指標①	【西山天王山駅周辺】都市再生整備計画(一次計画R1~R5)の進捗率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	47(令和2年度)	目標	98	99	100	二次計画の推進	二次計画の推進
		実績	99(41)				
	指標②	【都心ゾーン】都市再生整備計画(一次計画R2~R4)の進捗率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4(令和2年度)	目標	72	100	二次計画の推進	二次計画の推進	二次計画の推進
		実績	94(56)				
	<ul style="list-style-type: none"> 西山天王山駅周辺地区、都心ゾーン地区の都市再生整備計画に基づき、済生会京都府病院の移転に関する支援及び庁舎周辺整備など各種事業を実施しました。 新たに防災指針を加えた立地適正化計画令和4年3月改訂版を策定しました。 ※実績値は令和2年度時点の全体事業費に対する進捗率であり、()内は阪急長岡天神駅東口暫定整備や第四小建替え事業など含む、最新の整備計画の全体事業費に対する進捗率					立地適正化計画	
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		鉄道三駅乗降客数	新型コロナウイルス感染症の影響により全ての駅で乗降客数が大幅に減少しました。	187
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・人の流れをまちに誘導するための土地区画整理事業や病院建設といった都市基盤整備事業が完了しました。
	課題等	—		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性 1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 ・引き続き都市再生整備計画に基づく事業を実施するとともに、第2期都心ゾーン地区の計画を策定し、持続可能な都市経営を実現します。

分野	41	市街地	通番 79
施策	413	都市機能の再創造	
5年後の目標		人の流れをまちに誘導し、新たな交流とにぎわいを生み出している。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公共施設再編整備事業		会計	款	項	目	291,230	公共資産 活用推進室
			一般	2	1	5		
事業の概要								
公共施設等の維持管理や更新にかかる負担の軽減、跡地の活用、財源の確保、あるべき行政サービスの水準などの検討を行い、公共施設等総合管理計画及び公共施設等再編整備構想を改定し、その内容に基づいて公共施設等の再編整備等を進めます。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	公共施設等総合管理計画及び公共施設等再編整備構想の改定				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	個別施設計画の策定(令和2年度)	目標	・総合管理計画の改定 ・公共施設等再編整備構想の改定	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援	改定内容に基づく公共施設等の再編整備等の支援
		実績	公共施設等総合管理計画及び公共施設等再編整備構想改定				
<ul style="list-style-type: none"> 「長岡京市公共施設等総合管理計画」を改定し、その方針を受けた「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」も同時に改定しました。改定にあたってはパブリックコメントを募集し、市民からの意見も盛り込みました。 未利用地の活用について、方針の検討が必要な施設を列挙し計画に掲載しました。 個々の施設の詳細な状態を把握するため、公共施設カルテを最新の情報に更新しました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	
		—		—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 個別施設計画の内容を踏まえた「長岡京市公共施設等総合管理計画」及び「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」を改定し、施設全体及び個々の施設の今後の方向性を示しました。 公共施設カルテを最新の情報に更新し、個々の施設の詳細な状態を把握しました。 跡地活用の可能性について、庁内で協議を進めました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 「長岡京市公共施設等総合管理計画」及び「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」での方針をもとに各施設の整備や跡地利用の検討を進めていく必要があります。 跡地利用の具体化に向けて、早期に庁内の合意形成を進めていく必要があります。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	対応策等 <ul style="list-style-type: none"> 「長岡京市公共施設等総合管理計画」及び「長岡京市公共施設等再編整備構想2021」での方針をもとに各施設の整備や跡地利用の方針を具体化していきます。

分野	42	道路・交通	通番 80
施策	421	交通ネットワークの充実	
5年後の目標		超高齢社会やエコライフ実践を踏まえた交通ネットワークが充実しており、誰もが安心して快適に移動できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	公共交通基盤整備事業		会計	款	項	目	78,069,173	交通政策課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
<p>路線バスやはっぴいバスで地域の人々の移動手段を確保します。また、バス以外の移動手段についても積極的に検討するとともに、済生会京都府病院の移転に合わせて、はっぴいバスのルート再編を行い、交通ネットワークの充実を目指します。</p> <p>阪急バス長岡京線の収支状況悪化に伴う減便計画は約3割の減便とされており、同計画がそのまま実施されると199便となりますが、運賃の在り方やバスの更なる利用促進、必要に応じた財政支援などの手段を講じてバス路線の維持に努めます。</p>								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	バス路線の維持(1日あたりの便数)				単位	便/日
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	275(令和2年度)	目標	245以上	245以上	245以上	245以上	245以上
		実績	254				
<p>・ 済生会京都府病院の移転に対応し、業務委託によりはっぴいバスのルート再編を検討し、地域住民の移動手段を確保する新たなルート案を策定しました。</p> <p>・ 済生会京都府病院の移転や阪急バス長岡京線の赤字拡大をきっかけとして、地域公共交通会議において、地域住民、交通事業者、行政が一体となり協議・検討を行い、将来にわたって持続可能な新たな「公共交通中心のまちづくり」の実現に向け、利便性向上・利用促進策の導入、路線バスのルート・ダイヤの再編、路線バスの運賃適正化の3つの柱による新たな施策を展開していく方向性を決定しました。</p>						<p>長岡京市地域公共交通会議の様子</p> 	

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
			—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<p>・ 令和3年度中において、主要路線を除く一部の路線において、再編が実施されましたが、従来より運行・利用とも少ない路線であり影響は少なく、全体の運行便数としても目標を上回る便数が維持されました。</p> <p>・ 長岡京線全体の再編について、交通事業者と継続して建設的な協議を重ねてきた結果、令和3年度においては主要路線の減便は見送られ、目標を上回る便数が維持されました。</p>		
	課題等	<p>・ 阪急バス長岡京線の収支については、依然として赤字が続いており、更に新型コロナウイルス感染症の影響が拍車をかけています。</p> <p>・ 地域公共交通会議での協議結果を受け、令和4年6月1日より長岡京線全体の再編による便数等の変更や運賃の見直しが予定されています。</p>			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<p>・ 地域公共交通会議での協議結果を受け、令和4年度に再編により便数等の変更が予定されており、これにより運行便数としては減少する見込みですが、利便性向上・利用促進策の導入、路線バスのルート・ダイヤの再編、路線バスの運賃見直しの3つの柱のパッケージ展開により、利便性を維持しながら阪急バス長岡京線の収支改善を図り、バス路線を維持していきます。</p>

分野	42	道路・交通	通番 81
施策	421	交通ネットワークの充実	
5年後の目標		超高齢社会やエコライフ実践を踏まえた交通ネットワークが充実しており、誰もが安心して快適に移動できている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	自転車ネットワーク路線整備事業		会計	款	項	目	0	交通政策課
			一般	8	4	1		
事業の概要								
長岡京市自転車活用推進計画(自転車ネットワーク計画)に基づき、自転車ネットワーク優先整備路線の整備を推進します。								


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	自転車ネットワーク計画における優先整備路線の整備率					単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	0(令和2年度)	目標	10	20	30	40	50	
		実績	19.9					
<ul style="list-style-type: none"> 長岡京市自転車活用推進計画に基づき、優先整備路線のうち、府道西京高槻線や府道伏見柳谷高槻線等の一部を整備しました。 						整備された路線 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—	—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 主に京都府道において、目標値を大きく上回って整備されました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 一定の連続性を考慮して、整備箇所を選定する必要があります。 				

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き各道路管理者と調整を行い、自転車ネットワーク優先整備路線の整備を行います。

分野	42	道路・交通	通番 82
施策	422	道路空間の整備	
5年後の目標		道路空間の安全性と快適性の向上のため、歩車道の維持管理や再整備が適切に行われ、バリアフリー化が進んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	府施行御陵山崎線整備事業		会計	款	項	目	11,359,000	まちづくり政策室
			一般	8	4	2		
事業の概要								
御陵山崎線第3工区の完成及び北伸整備については、実施主体の京都府と連携した支援を行い、早期の整備を推進するとともに、建設事業に要する経費の一部を負担します。 また、第3工区は事業計画が一部見直されており、無電柱化整備を同時に実施の予定となることから、合わせて連携・推進を行います。								


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	御陵山崎線第3工区の事業進捗及び北伸整備の事業推進					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	・第3工区工事着手 ・北伸区間の関係機 関協議(令和2年 度)	目標	・第3工区の工事推進 ・北伸整備の関係者協 議	・第3工区の工事推進 ・北伸整備の関係者協 議	・第3工区の工事完成 ・北伸整備の関係者協 議	・北伸整備の関係者協 議	・北伸整備の関係者協 議	
		実績	第3工区の工事推進					
<ul style="list-style-type: none"> ・府施行街路事業負担金を支出しました。 ・全ての事業用地が確保でき、埋蔵文化財調査、地下埋設物の移設工事や排水構造物等の整備がされました。 ・道路拡幅に合わせて無電柱化を実施するよう事業計画の見直しが行なわれたことに伴い、事業認可期間が令和7年度末まで延伸されました。 ・事業に関連した用地の整理のため買受申出者等との協議を進めました。 					<p>御陵山崎線第3工区</p> 			

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	・御陵山崎線第3工区の埋蔵文化財調査、地下埋設物の移設工事や排水構造物等の整備がされました。	—
	課題等	・事業計画の見直しにより令和7年度末まで事業認可期間が延伸されたため第3工区の完成時期が令和7年度になりました。			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> ・事業認可期間の変更に応じ、第3工区の整備を推進します。 ・現在実施中の第3工区整備完了後の次期整備区間の箇所選定及びルートについて、協議を行います。

分野	42	道路・交通	通番 83
施策	422	道路空間の整備	
5年後の目標		道路空間の安全性と快適性の向上のため、歩道の維持管理や再整備が適切に行われ、バリアフリー化が進んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	交通安全施設整備事業		会計	款	項	目	9,682,168	道路・河川課
			一般	8	2	3		
事業の概要								
市内小学校区の通学路や幼稚園、保育所の散歩コースの安全対策、快適性を確保するため、長岡京市子どもの移動経路/通学路等の交通安全プログラムに基づく歩道整備や交通安全対策等整備計画を策定し、計画的に整備を実施します。								


令和3年度の実績							
D (取組)	指標	歩道延長(1,020m)の整備率				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0(令和2年度)	目標	33.3	43.1	61.8	90.2	100.0
		実績	1.1				
<ul style="list-style-type: none"> ・こども園に隣接した市道第1069号線において、水路の暗渠化による11mの歩道を整備しました。 					市道第1069号線歩道整備		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市子どもの移動経路/通学路等の交通安全プログラム計画に基づき、工事を実施しました。 ・線越事業となるため令和4年度上半期に完了し、残る市道第1069号線の歩道整備を進めます ・光明寺に隣接した市道第3287号線他歩道整備については、用地買収の難航により実施できませんでした。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・市道第3287号線他歩道整備については、令和3年度に用地買収が2件完了したものの、残り6件が用地交渉中となり、早期の用地確保が課題となります。 		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> ・用地の確保については、制度を活用しつつ、土地所有者と協議を進め、事業の進捗を図ります。
	対応策等

分野	42	道路・交通	通番 84
施策	422	道路空間の整備	
5年後の目標		道路空間の安全性と快適性の向上のため、歩車道の維持管理や再整備が適切に行われ、バリアフリー化が進んでいる。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	都市計画道路の見直し		会計	款	項	目	3,829,859	まちづくり 政策室
			一般	8	4	2		
事業の概要								
17路線34,400mの都市計画道路を京都府や近隣市町と調整し、見直します。								

令和3年度の取組							
D (取組)	指標	都市計画道路の計画変更				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	計画の存続・廃止等の見直しにかかる素案の策定(令和2年度)	目 標	都市計画変更(計画見直し)	都市計画変更(ルート見直し)	計画見直し(関係機関協議)	計画見直し(関係機関協議)	計画見直し(関係機関協議)
		実 績	都市計画変更(計画見直し)				
<ul style="list-style-type: none"> 京都府や近隣市町と協議を重ね、市民への説明会やパブリックコメント実施を経て、34,400mの都市計画道路のうち約23%の道路を廃止する都市計画変更を行いました。 					都市計画道路の見直し 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・ 34,400mの都市計画道路のうち約23%の道路を廃止する都市計画変更を行いました。	—
	課題等	—			—

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動) 1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路の廃止を踏まえ、現状の都市計画道路のルートの妥当性の検証を行い、ルート変更についての検討を進めていきます。

分野	43	産業	通番 85
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	創業支援事業		会計	款	項	目	0	商工観光課
			一般	7	1	2		
事業の概要								
<p>創業者の増加は地域経済の持続的発展や課題となっている空き店舗対策、雇用の創出など地域経済の活性化や生活基盤の安定にも繋がるものであることから、創業イベントやチャレンジショップなど創業支援等事業計画に基づいて、創業希望者の支援と機運の醸成を行います。</p>								

令和3年度の取組							
D (取組)	指標①	創業相談件数(創業支援等事業計画に基づく支援事業内容ごとの合計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	95	95	95	95	95
	70(令和元年度)	実績	61				
	指標②	創業支援件数(創業支援等事業計画に基づく支援事業内容ごとの合計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
		目標	39	39	39	39	39
	21(令和元年度)	実績	28				
<p>これまでビジネスカフェの講師を務めていただいた先輩創業者と協議し、今後の展開について検討を重ねました。また、創業に興味を持つ市民が参加するビジネスカフェと、実際の創業に向けて長岡京市商工会が実施する「創業塾」との中間事業の在り方について、商工会と共同実施も含めた検討等を行いました。度重なる緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令によりビジネスカフェの開催はできませんでした。</p>							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		新たな起業者数	廃業数は減少していますが、廃業数が新設数を上回る傾向が続いています。	189
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・創業意思のある市民は一定数あり、創業相談の件数は昨年度と同程度ですが、実際に創業される方は増加しています。創業の意向が固まった方が相談や支援を受け、創業に繋がっていると想定されます。 ・創業への興味や関心があるものの、創業の意向等が固まっていない方が方向性を判断し、意欲を増進していく取組みが必要です。 ・創業希望者支援をこれまで講師役を務めていただいた先輩創業者と、コロナ禍でも可能なビジネスカフェの開催手法について協議を行いました。 ・創業に興味を持つ市民が参加するビジネスカフェと、実際の創業に向けて商工会が実施する「創業塾」との中間事業の在り方についての協議を行いました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・創業希望者が相談し、悩みを共有する場を開催することでモチベーションの維持・向上を保つことが重要ですが、コロナ禍において、人が集まってビジネスカフェ等を実施することの困難さがあります。 ・各団体が実施する創業支援事業の役割や対象を再度検討し、創業希望者のニーズに合った支援機関の連携を充実させていくことが課題です。 		

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1:計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における在宅ワークの増加等新しい生活様式に合わせた事業を含め、創業に興味や意欲のある市民を適切に支援していくため支援機関の連携強化を図ります。 ・ICT化の推進により、創業の在り方も多様化しており、ビジネスカフェにおいて講師役となる先輩創業者の選定や開催方法の工夫を行います。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における在宅ワークの増加等新しい生活様式に合わせた事業を含め、創業に興味や意欲のある市民を適切に支援していくため支援機関の連携強化を図ります。 ・ICT化の推進により、創業の在り方も多様化しており、ビジネスカフェにおいて講師役となる先輩創業者の選定や開催方法の工夫を行います。
方向性	対応策等				
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における在宅ワークの増加等新しい生活様式に合わせた事業を含め、創業に興味や意欲のある市民を適切に支援していくため支援機関の連携強化を図ります。 ・ICT化の推進により、創業の在り方も多様化しており、ビジネスカフェにおいて講師役となる先輩創業者の選定や開催方法の工夫を行います。 				

分野	43	産業	通番 86
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	企業誘致の促進		会計	款	項	7,010,000	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
既存企業や事業所の動向を注視しつつ、京都府や各所管において情報共有を図るとともに誘致促進に向けた体制を整えます。また、新庁舎の建設や、長岡天神駅周辺まちづくり基本構想に基づく土地利用計画に沿った誘致政策に取り組みます。							

令和3年度の取組							
D (取組)	指標	企業進出にかかる相談件数、()内は期間助成対象件数(累計)				単位	件
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	13(2) (平成28～令和元年度)	目標	2(0)	4(0)	6(1)	9(1)	12(2)
		実績	3(0)				
<ul style="list-style-type: none"> ・長岡京市企業立地促進条例及び長岡京市企業立地促進条例施行規則に基づき、助成金を交付しました。(参考) 操業支援助成金4,829,000円 地元雇用促進助成金1,800,000円 ・長岡京市宿泊施設立地等促進事業費補助金交付要綱に基づき、補助金を交付しました。(参考) 操業支援補助金381,000円 ・コロナ禍でしたが、企業進出に係る相談件数は3件ありました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・企業進出に係る相談件数の目標を上回りました。 ・企業からの相談、問い合わせが3件あり、小売業、宿泊業、製造業と多岐にわたる業種の相談がありました。 ・市内事業者の移転の問い合わせがありました。 ・補助対象とはなりません、事業者から小規模なテナントやオフィスを探されているとの相談もあり、商工会等と連携し、空き店舗等の案内に繋がりました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数は多いものの、市として土地の案内等、具体的な提案をすることが出来ない点が課題です。 ・小規模なテナント、オフィスのニーズや空き店舗情報の集約ができておらず、具体的な提案ができないことが課題です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> ・農林振興課、まちづくり政策室、都市計画課等関係部署と連携しながら、情報収集を行い、取りまとめた上で情報提供を行っていきます。 ・商工会、商店街へ空き店舗等の情報収集を行っていきます。

分野	43	産業	通番 87
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	商工会支援事業		会計	款	項	45,041,000	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
地域商工業の発展や、中小企業の育成を推進するため、商工会の組織強化と実施する経営指導や人材育成など各種事業を支援します。また、(仮称)中小企業振興条例の制定を検討し、地域が一体となって中小企業振興に努め地域経済活性化に繋がります。							


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	商工会員数				単位	事業所
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	739(令和元年度)	目標	793	820	847	874	902.0
		実績	872				
<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業者への経営改善指導、地域振興等への支援を行うための当初運営補助に22,726千円、その後コロナ禍の影響が大きい事業者への臨時的な補助として22,315千円の支援を実施しました。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、適切な事業者支援となるように、市と商工会で協議し、当初予定していた事業内容を組み替え、実施しました。 ・コロナ禍に対応し、業種業態の変革を企図する事業者に対し、商工会経営支援員の伴走支援のもと、変革にかかる経費を補助する「経営変革補助金」を募集し、申請のあった全事業者が補助を受けられるように市でも予算措置しました。 ・商工会の会員・非会員を問わず、相談が可能な中小企業診断士を令和2年度に引き続き配置し、多くの相談に対応しました。 ・まん延防止等重点措置に係る時短要請による影響の大きい飲食業へのグルメ券やアフターファイブ券やウッドショックをはじめとする資材の高騰と市民のリフォームニーズの高まりを受け、リフォーム工事券の拡充を実施しました。 							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
	達成度合	市内民間事業所数・従業員数の推移	経済センサス活動調査については5年ごとの発表。令和3年調査結果は、令和4年9月に公表予定です。	189
		達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、商工会活動が制限され、ガラシャ祭等イベントの開催ができませんでした。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者を下支えするため、建設業者には、リフォーム工事券のプレミアム額を30%に上乘せし、また飲食店には、グルメ券やアフターファイブ商品券など、コロナ禍に応じた支援を実施しました。 ・中小企業診断士による経営相談窓口を開設し、会員・非会員問わずに対応したことで、商工会活動への理解が広がり、加入数が83者増加しました。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・会員を中心とした市内事業所に寄り添った事業者経営支援を商工会とともに実施していくことで新規加入者を増やしていきます。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が長期化しており、経営状況の悪化やwithコロナ、アフターコロナにあった業態変革の取組をしていくことが必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた事業者からの経営相談等を通じ、今後の事業者支援に対するニーズを把握し、商工会と連携しながら、withコロナ、アフターコロナにあった支援策を講じていきます。 ・コロナ禍や社会情勢の変化による建設資材、半導体、原油等の不足に対する支援策を検討していきます。

分野	43	産業	通番 88
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	中小企業振興条例の制定		会計	款	項	318,441	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
中小企業振興条例を検討していくプロセスを通して、中小企業振興支援への取り組みに対する決意を示すとともに、事業者自らが条例を作り上げていくことにより、ステークホルダーの意識を高め、更なる長岡京市の中小企業の振興及び地域経済の循環・活性化をめざします。							


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	中小企業振興条例の制定					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	—
	条例検討準備会発足(令和元年度)	目標	検討会の設立	条例の制定	—	—	—	—
		実績	検討会の設立・開催					
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年7月に(仮称)中小企業振興条例検討会を設置しました。 令和3年度は、検討会を3回(7/15、9/30、11/18)開催しました。 検討会では、条例の各項目について議論し、特に前文や基本理念など条例の肝となる部分については、2班に分かれて意見交換しました。 令和4年3月26日には、長岡京市中小企業振興条例シンポジウムを開催し、事業者だけでなく市民の方にも参加いただき、条例制定に向けた機運が高まりました。 					検討会の様子 			

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> (仮称)長岡京市中小企業振興条例検討会設置要綱を制定し、検討会を設置しました。 令和3年度は、検討会を3回(7/15、9/30、11/18)開催しました。 令和4年3月26日には、長岡京市中小企業振興条例シンポジウムを会場とオンラインで開催し、約50名の市民・事業者等の参加がありました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 条例の制定にあたり、ホームページや広報への掲載、各団体への勉強会への出席などを通じて、事業者や市民など多くの人に知ってもらい、理解してもらうことが必要です。 条例施行後の推進体制の検討が必要です。 		

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当 ・ 条例案を作成し、パブリックコメントを通じて、事業者や市民の意見を踏まえて、条例の制定を進めていきます。

分野	43	産業	通番 89
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	新・観光戦略プラン推進事業		会計	款	項	5,160,969	商工観光課
			一般	7	1		
事業の概要							
観光戦略プラン推進本部会議を本市の観光施策展開におけるシンクタンクと位置付け、マーケティング調査結果や各種事業結果の分析に基づいたアクションプログラムを実施します。最終目標である観光消費額向上と滞在時間延長に向けた観光誘客と周遊施策を展開し、まちの魅力発信にもつなげます。							


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	体験プログラム数					単位	個
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	30	32	34	36	38	
		実績	37					
<ul style="list-style-type: none"> ・通年での旅やお出かけの目的となる“消費の受け皿”を充実させるために、「新・観光戦略プラン」の前期中間中に発掘した事業者（プレイヤー）の体験プログラムの情報発信や企画を支援しました。 ・飲食や買物、体験プログラム等の観光コンテンツの集積による長岡天満宮の「拠点化」に向け、長岡天満宮周辺で事業を行うプレイヤーのチーム形成を支援しました。 ・長岡天満宮周辺の観光コンテンツを巡る旅行商品の造成や磨き上げに向けたモニターツアーを実施しました。 						竹の茶杓づくり体験		
								

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額の向上と魅力発信につながる民間主導の取組みが進みました。 ・プレイヤーの自立した活動が活性化しており、体験プログラムの造成に加えて、定期的なマルシェイベントの開催や、本市の特産品である竹工芸品を専門に扱うショップとギャラリー、体験プログラムを提供する拠点施設の開設など多くの取組みが進みました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・プレイヤーの自立的な活動の継続とさらなる活性化のために、事業者間連携や情報発信、誘客などの面で支援を行う必要があります。 ・造成された体験プログラムなどの観光コンテンツをまちの魅力発信につなげるためのプロモーションを強化する必要があります。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当
	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを着実に推進し、事業者間の連携や情報発信、誘客など、自立的な取組みを後押しするための支援を行います。

分野	43	産業	通番 90
施策	431	商工業・観光の振興	
5年後の目標		都市活力の基盤を守る工業が元気で、商業・観光がもたらすにぎわいと交流に、まちがさらに活気づいている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	観光誘客事業		会計	款	項	目	3,121,016	商工観光課
			一般	7	1	4		
事業の概要								
新・観光戦略プランのアクションプログラムによって創出された観光コンテンツや広域連携などを着実な誘客につなげるために、旅行商品の造成に向けた旅行会社との商談や、各コンテンツに適したプロモーションの展開などを行い、長岡京市の観光ブランドイメージの形成や、観光入込客数、観光消費額、関係人口の増加につなげます。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標①	観光入込客数(日帰) * 新基準補正後				単位	人
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	858,547 (令和元年)	目標	500,000	650,000	850,000	885,000	920,000
		実績	521,757				
	指標②	一人あたり観光消費額(日帰) * 新基準補正後				単位	円
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
2,105(令和元年)	目標	1,800	1,950	2,100	2,200	2,300	
	実績	2,367					
<ul style="list-style-type: none"> 大河ドラマの効果を一過性とせず、勝竜寺城公園の認知度向上と歴史イメージの発信のために「勝竜寺城築城450年祭」として企画展や講演会、観光協会と連携した限定版御城印の販売などを実施しました。 京都を旅行する際の「目的地」としての長岡京市のイメージ発信と定番化を行うために、京都を特集する旅行ガイドブックに記事広告を出稿しました。 広域での取り組みとして、「竹の里乙訓(向日・長岡京・大山崎・京都府)」と京都市が連携し、市域を越えて共通するテーマを巡る周遊ルートに掲載したまち歩きマップを作成し、地図アプリで公開しました。 					勝龍寺城築城450年祭の企画展 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	観光入込客数・観光消費額 (日帰)		観光入込客数は、長期間、緊急事態宣言等が発出されていたため、減少しました。観光消費額は、特産であるタケノコの旬の時期と緊急事態宣言の解除期間が重なったことから改善しました。	188
		B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる緊急事態宣言等の発出により観光入込客数が減少しました。 これまでの商談会や旅行会社へのPRの効果もあり、勝竜寺城公園を目的地とするツアーが造成されました。 旅やお出かけの「目的地」としてのエリアイメージを形成するために、「京都・西山」として、竹の里乙訓と京都市と連携したフォトコンテストや周遊ルート造成などに着手し、SNSなどを通じた情報発信を強化しました。 	
課題等		<ul style="list-style-type: none"> withコロナ・アフターコロナの観光ニーズに対応する観光コンテンツの造成やプロモーションが必要です。 広域連携による取り組みでは、旅やお出かけの「目的地」としてのイメージ形成と情報発信に加えて、着実な誘客につなげるキャンペーンなどの取り組みが必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 「新・観光戦略プラン」に定めるアクションプログラムを推進し、ニーズ把握や観光コンテンツの創出に向けた事業者への支援を進めていきます。 広域連携では、情報発信に加えて、着実な誘客につなげるキャンペーンなどを連携して実施していきます。

分野	43	産業	通番 91
施策	432	営農支援	
5年後の目標		安定した農業経営の維持と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	担い手育成による農地保全事業		会計	款	項	目	1,418,391	農林振興課
			一般	6	1	3		
事業の概要								
<p>農業者の高齢化と後継者不足により労働力の低下が進行する中、安定した農業経営を維持することを目的に、本市の特産物である花菜、ナス、タケノコの普及啓発はじめ、生産技術の向上や新たな販路の創出を進めるとともに、収益性の高い農業への転換や普及を図ることで、営農規模の拡大や収益の向上に意欲的に取り組む次代の担い手を育成します。また、将来の地域の農業の在り方を定める「人・農地プラン」による農地の集積・集約化への機運醸成を図ります。</p>								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	農地の担い手への利用集積率				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	20.9(令和元年度)	目標	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない	前年度を下回らない
		実績	18.5				
<ul style="list-style-type: none"> ・特産物の栽培技術、品質向上を図るため、「ナス」の品評会を開催しました。 ・長年にわたり花菜の栽培を通して、本市の農業振興に寄与した「花菜部会」に対して特別表彰を行いました。 ・環境負荷の少ない農業の推進と特産物の高付加価値化を図るため、花菜、ナスの栽培における、剪定枝を有効利用した有機肥料の購入、散布に対して補助しました。 ・高収益作物栽培に有効な温室ハウスの設置に対して補助を行い、安定した農業経営が行えるように支援しました。 					花菜部会総会 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		主要作物 (花菜、ナス、タケノコ) の出荷量		豊作や不作の年があるものの、農家数、農業就業者数、農地面積の減少から、出荷量は微減傾向にあります。	190
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・農業生産の安定化、効率化及び特産物の高付加価値化を図るため、農業施設設置や有機肥料購入に対する補助等を行いました。 ・花菜の栽培を通して本市の農業振興を牽引し、また東京市場まで販路を開拓し全国に長岡京市の知名度を向上させてきた花菜部会に特別表彰を行いました。 ・昨年度より担い手への集積が48a増加したものの、高齢等により369aが利用集積面積から減少したため利用集積率が下がりました。 ※令和2年度の利用集積率は19.9% 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・農業就業者の減少と高齢化が進む中、利用集積率を向上させるためには、地域農業の核となる農業者の育成や農業経営の効率化等の支援、併せて新規就農者の確保が必要となります。 				

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1: 計画通りに進めることが適当 対応策等 <ul style="list-style-type: none"> ・本市の特産物である花菜、ナス、タケノコの普及啓発をはじめ、生産技術の向上や新たな販路の創出を進めるとともに、収益性の高い農業への転換や普及を図ることで、営農規模の拡大や収益の向上に意欲的に取り組む次代の担い手を引き続き育成します。 ・将来の地域の農業の在り方を定める「人・農地プラン」を策定しました。今後は担い手への農地の集積・集約化を図ります。

分野	43	産業	通番 92
施策	432	営農支援	
5年後の目標		安定した農業経営の維持と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	「農」を通じた交流と 地産地消の推進事業		会計	款	項	目	1,340,318	農林振興課
			一般	6	1	3		
事業の概要								
農業や地元農産物に対する市民の理解と関心を深め農業に対する評価を高めるため、生産者の顔が見える販売や食育の取組など市民との交流機会を創出します。また、地元野菜の普及啓発を進めるとともに学校給食への納入や農家による販売機会を増やすことで、多様な営農活動の活性化や地産地消を推進します。								

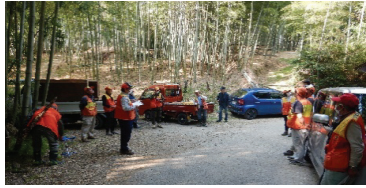
令和3年度の取組							
D (取組)	指標	地元産農林産物の学校給食への納入実績金額				単位	万円
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	963(令和元年度)	目標	1,000	1,020	1,040	1,060	1,080
		実績	1,065				
<ul style="list-style-type: none"> ・販路拡大を図るため、市内スーパーへのインショップ出店を継続しました。 ・小中学校給食への地元産農産物の安定供給のため、納品調整を行いました。 ・市内事業所や保育所給食へ地元産農産物の供給を進めました。 ・地元産農林産物に対する市民の理解を深めて地産地消の推進を図るため、地元産野菜の直売会及び市内保育所、幼稚園を対象に花菜の摘み取り体験を実施しました。 ・地元産野菜の普及・PRを目的にFMおとくにや広報紙で地元産夏野菜の紹介を行いました。 ・特産物の普及啓発のため、ほっこりんぐでナス・トマトの販売に取り組みました。 ・新たに軒先販売等の直売所リストを市HPへ掲載し、併せてPRのぼりを掲示することで販売場所が分かるように努めました。 					花菜摘み取り体験 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校給食への地元農産物を少しでも多く供給する為、納品者へ作物の生育状況を聞き取り、各学校で納品ロスが出ないよう納品調整を行いました。 ・保育所給食、市内事業所への地元産農産物の供給や市内スーパーへのインショップ継続出店による販路拡大に取り組むとともに、地元産野菜の直売会及び花菜の摘み取り体験を実施することで地元産農産物をPRして地産地消を推進しました。 ・たけのこの地方発送に対応可能な販売所の情報を市HPに掲載し、特産物の販売促進とPRを行いました。 	
	課題等		・学校給食へ安定的に納品できる体制を作る為、学校給食以外でも農産物販売を積極的に行う農業者を支援する必要があります。	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> ・農業や地元農産物に対する市民の理解と関心を深めるため、生産者の顔が見える販売や食育の取組など、市民との交流機会を創出します。 ・引き続き、学校給食への納品率を向上させるため、学校間の納品者調整を行い、キャンセルを減らす取組に努めます。 ・農産物をふるさと納税の返礼品にすることについて、農家へ継続的に案内を行います。

分野	43	産業	通番 93
施策	432	営農支援	
5年後の目標		安定した農業経営の維持と農地の保全により、都市と農地との共生が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	有害鳥獣対策の推進事業		会計	款	項	目	1,469,164	農林振興課
			一般	6	2	1		
事業の概要								
西山一帯に設置した防護柵の効果的な維持管理と野生動物の個体数管理を適正に行うとともに、猟友会への活動支援と有害鳥獣捕獲の連携強化を推進し、農作物の被害軽減を図ります。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	鳥獣による農作物の被害面積				単位	a
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	209(令和元年度)	目標	137	129	121	113	105
		実績	178				
<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣捕獲でイノシシ3頭、シカ5頭、カラス8羽の実績がありました。 平成21年度から実施している広域捕獲事業（京都市、大山崎町との連携事業）において、イノシシ2頭、シカ3頭を捕獲しました。 農家組合長連絡協議会と連携して金網防護柵の点検・補修を行うとともに、維持管理に対する資材費等の支援を行いました。 					乙訓猟友会による有害鳥獣捕獲		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> 乙訓猟友会と連携して効率的な捕獲を実施し、有害鳥獣の個体数管理を行いました。 農家への聞き取り等でエリア毎の農作物被害状況を把握すると共に、農家組合長連絡協議会と連携して金網防護柵の維持管理を実施しました。 集中豪雨等により金網防護柵が一部破損した箇所を修繕し、有害鳥獣の侵入による農作物被害軽減に取り組みました。しかし、他市町との隣接部分の管理については課題と考えます。 	
	課題等		<ul style="list-style-type: none"> 依然として農作物被害が発生しているため、有害鳥獣の侵入経路の調査を実施し重点的に補修を行うなど対応が必要です。また、引き続き有害鳥獣捕獲事業の取り組みにより、有害鳥獣の個体数調整を継続的に実施していく必要があります。 他市町から有害鳥獣が侵入してくる可能性も考えられるため、隣接する他市町と連携を図り、金網防護柵の一体的な維持管理を行う必要があります。 	

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> 市内全域に設置している金網防護柵について、野生鳥獣の衝突や自然災害等により損壊するおそれがあるため、定期的な点検体制を整え、損壊箇所の早期発見・修繕に努めます。また、修繕に必要な資材費等の支援や、農業者等への技術的指導を進めていきます。 金網防護柵に被害を与える野生鳥獣の活動エリアや活動傾向について、現地確認やセンサーカメラ、乙訓猟友会への聞き取り等による調査を継続します。 隣接する他市町と情報共有を行い、金網防護柵の一体的な維持管理の効率化を図ります。

分野	44	防災・安全	通番 94
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)	予算科目	決算額(円)	担当課	
	雨水浸水対策事業	会計	款	—	下水道施設課
		項目			
		公営企業会計			
事業の概要					
<p>京都府いろは呑龍南幹線全面供用開始(令和5年度)に向け、京都府と連携して事業を推進し、供用開始後は排水区域内の水路の整備を進めていきます。</p> <p>犬川の改修及び神足ポンプ場改修による排除能力の向上に向け、犬川排水区の浸水対策に取り組みます。</p> <p>風呂川排水区の機能向上に向け、浸水対策に向けた検討を進めます。</p>					


令和3年度の取組								
D (取組)	指標①		五間堀川排水区の工事進捗				単位	—
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	いろは呑龍南幹線接続工事	いろは呑龍南幹線接続工事	いろは呑龍南幹線全面供用開始	雨水基本計画作成	雨水基本設計	
		実績	工事を実施					
	指標②		犬川排水区の工事進捗				単位	—
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	雨水貯留施設詳細設計	・雨水貯留施設工事 ・雨水ポンプ場詳細設計	・雨水ポンプ場工事 ・犬川改修詳細設計	雨水ポンプ場完成	犬川改修工事	
		実績	詳細設計を実施					
	指標③		風呂川排水区の整備進捗				単位	—
	現状(計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
	—	目標	基本設計	整備方針、スケジュール決定	整備方針に基づく進捗管理	整備方針に基づく進捗管理	整備方針に基づく進捗管理	
		実績	基本設計を実施					
<ul style="list-style-type: none"> いろは呑龍トンネル南幹線への接続工事(4箇所)のうち、2箇所です工事を実施し、1箇所(馬ノ池川の分水施設)は工事を完了し供用を開始しました。 犬川排水区については、雨水貯留施設の詳細設計業務を実施しました。 風呂川排水区の基本設計として、野添公園貯留施設の代替案の検討を含む整備方針について設計検討を行いました。 								
<p>いろは呑龍トンネル南幹線供用開始記念式典</p> 								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		雨水整備率	いろは呑龍トンネルの一部供用開始により数値が向上しました。	191
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> いろは呑龍トンネル南幹線接続施設のうち、令和3年度に市の工事完成を目標としていた2箇所です工事を実施し、1箇所(馬ノ池川の分水施設)は工事を完了し供用を開始しました。残る1箇所(芝本川・森本川の分水施設)は京都府と調整を行い令和4年度中に工事を完了する予定です。 犬川排水区、風呂川排水区については、委託業務を実施し、予定通り設計を終えることができました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 五間堀川排水区：残り2箇所(餅田川、勝竜寺川の分水施設)の立坑位置の決定を京都府と連携し、早期に行う必要があります。 犬川排水区：雨水貯留施設の築造工事に伴い、1件の用地取得が必要となり、早期の取得が課題となります。 風呂川排水区：設計結果にて影響が生じる関係機関と協議・調整を行い今後の方針の検討を行います。 			

次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 五間堀川排水区：京都府と連携し、施工中の接続工事を着実に進め、残る2箇所についても工事着手を目指し、関係機関や地元との調整を進めます。 犬川排水区：用地の取得、雨水貯留施設の築造及び雨水ポンプ場詳細設計を実施します。 風呂川排水区：関係機関と調整を行い整備方針を設定します。 </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 五間堀川排水区：京都府と連携し、施工中の接続工事を着実に進め、残る2箇所についても工事着手を目指し、関係機関や地元との調整を進めます。 犬川排水区：用地の取得、雨水貯留施設の築造及び雨水ポンプ場詳細設計を実施します。 風呂川排水区：関係機関と調整を行い整備方針を設定します。
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 五間堀川排水区：京都府と連携し、施工中の接続工事を着実に進め、残る2箇所についても工事着手を目指し、関係機関や地元との調整を進めます。 犬川排水区：用地の取得、雨水貯留施設の築造及び雨水ポンプ場詳細設計を実施します。 風呂川排水区：関係機関と調整を行い整備方針を設定します。 				

分野	44	防災・安全	通番 95
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	防災情報伝達手段の整備事業		会計	款	項	目	5,194,458	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
災害時に気象情報や防災情報、避難情報等を緊急に市民等に伝達するため、「防災情報お知らせメール」の登録を促進します。また、デジタル防災行政無線、Jアラート受信機、さらにはコミュニティFMを活用した情報伝達の取り組みを進めるとともに、新たな情報伝達手段の導入を図るなど、災害情報伝達手段の充実・強化を図ります。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	防災情報お知らせメール・長岡京市公式LINE登録者数				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	12,000 (令和2年度)	目標	13,000	14,000	15,000	16,000	17,000
		実績	45,602				
<ul style="list-style-type: none"> ・市公式LINEでの避難情報発信を行うとともに、FMおとくにと「災害時等における緊急放送の運用に関する覚書」を締結するなど、緊急時の情報発信体制を強化しました。 ・年2回のサイレン吹鳴訓練やシェイクアウト訓練を実施しました。 ・広報紙やHP、市が発行する防災に関する資料において防災情報お知らせメールや市公式LINEの登録を案内しました。 ・市から発出する情報の統一化と発信までの手続き効率化を図る手法を検討しました。 					シェイクアウト訓練 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		—	—	
達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での講座や各訓練時、または広報紙、HP等で防災情報お知らせメールと市公式LINEの周知をしたことで、目標数の3倍以上の登録者数となり、目標を大幅に上回りました。 ・実際の災害警戒体制の中でFMおとくにを活用した情報伝達を行いました。 ・避難情報の発令を即時で伝達するため、情報発信ツールの多様化を進めました。 	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度に登録者数が急増しましたが、登録者の利用目的は主に新型コロナウイルス感染症のワクチン接種と考えられます。今後も防災情報の入手方法として活用するよう周知していく必要があります。 ・メールやLINEを活用していない層に対して、コミュニティFMの活用など他のツールを周知する必要があります。 		

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
3: 規模・内容又は実施主体の見直し検討	<ul style="list-style-type: none"> ・目標数を大幅に上回ったため、後期実施計画策定時に目標の再設定を検討します。 ・上昇した登録者数を活かし、市公式LINEでの防災情報の入手を積極的に周知して利用を推進します。 ・引き続き、SNSやメール、コミュニティFMなど、防災情報を取得できるツールを地域での講座や各訓練で周知します。

分野	44	防災・安全	通番 96
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	避難所機能及び 防災備蓄物資等の充実		会計	款	項	6,350,531	防災・安全 推進室
			一般	2	1		
事業の概要							
避難所機能充実に向けて、要配慮者への対応として間仕切りテント、パーテーションなどや、停電対策としての充電式照明器具等の避難所運営資機材の充実を図ります。 また、避難所での情報入手の手段、情報提供の確保を行います。 防災食料備蓄数76,000食を維持しながら、利便性の高い小分けの食料へ更新を行います。							


令和3年度の取組								
D (取組)	指標	防災食料備蓄数の更新率					単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	20	40	60	80	100	
		実績	20					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 備蓄物資等について令和7年度までの5か年計画で定めた長岡京市備蓄計画に沿って備蓄食料、日用品及び資機材を購入して更新しました。 ・ 50人分が1単位となっていた備蓄食料を利便性の高い1人分の個食に変更しました。 ・ 充電式照明器具や熱中症計を各小学校に配備しました。 ・ 避難所における情報入手を促進するものとして、災害協定先より提供いただいたWi-Fi機器を活用しました。 						個食アルファ化米 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
達成度合	達成状況	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 備蓄計画に定められた目標通りの個数を購入して更新しました。 ・ 50人分が1単位となっていた備蓄食料を1人分の個食に変更したり、粉ミルクをキューブタイプのミルクや液体ミルクに変更するなど、利便性向上のため備蓄食料を見直しました。 ・ 図書館で備蓄品の展示を行い、家庭での日ごろの備えについて啓発を行いました。 	
		課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料等が無駄にならないようローリングストックに注意する必要があります。防災意識の向上に寄与する活用方法を引き続き検討する必要があります。 ・ マンホールトイレについては、土に埋設されている場所があるため掘り起こしに労力を要します。発災時に使用しやすいように検討する必要があります。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当		<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き備蓄計画に沿った購入・更新を行います。 ・ より利便性の向上した備蓄物資等を検討します。 ・ 掘り起こしに時間のかかるマンホールトイレについて有事に使用しやすいよう検討します。

分野	44	防災・安全	通番 97
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	住宅・建築物耐震改修等事業		会計	款	項	目	9,285,600	住宅営繕課
			一般	2	1	10		
事業の概要								
市民の生命と財産を守るため、地震による被害を最小限にとどめることを目指し、耐震化に関する啓発を行うとともに、耐震診断・耐震改修に係る費用負担の軽減を行います。また、エコリフォーム等の他事業とのタイアップを行うことで、更なる負担軽減を図ります。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	旧耐震木造住宅に対する耐震診断士派遣事業の実施件数(累計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	464(令和元年度)	目標	500	525	550	575	600
		実績	484				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・ホームページ等の活用により情報を発信し、耐震改修の重要性と耐震性の向上へ向けた啓発を行いました。 ・ 耐震改修補助及びエコリフォーム補助の相談者に対し、相互に制度の案内を行う等、制度を活用し耐震化及びエコ化を促進しました。 ・ 耐震診断事業については、木造住宅耐震診断士の派遣を実施しました。 ・ 耐震改修補助については、本格改修補助(補助限度額1,000千円)と簡易改修補助(補助限度額400千円)及び耐震シェルター設置補助(補助限度額300千円)を実施しました。 ・ 長岡京市建築物耐震改修促進計画の改定を実施しました。 					啓発パンフレット等		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
		—		—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 耐震改修補助については、本格改修補助(補助限度額1,000千円)は8件7,810千円、簡易改修補助(補助限度額400千円)は2件800千円の補助を実施し、住宅の耐震化を推進しました。 ・ 耐震シェルター設置補助については申請はありませんでした。 ・ 耐震診断事業については、木造住宅耐震診断士の派遣を13件実施しました。令和2年度の7件からほぼ倍増しましたが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、目標値には及ばない結果となりました。 	
課題等			<ul style="list-style-type: none"> ・ 本格改修と簡易改修については、耐震診断を受けた住宅であることが要件となっているため、令和2年度の耐震診断の件数の減少に伴って減少する形となりました。 		

次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、国や府と連携した耐震改修補助制度を運用し、耐震化にかかる費用負担を軽減すると共に、市民の防災における耐震化へ向けた意識付けに注力し、耐震化の入り口である耐震診断の実施を広く推し進め、今後の更なる耐震化の促進を図ります。 ・ 例年4月に広報紙で診断士の派遣と耐震改修補助の募集案内を行っていますが、受付可能数に余裕がある場合は、2回目の掲載を行うなどして、申請件数の増加を目指します。

分野	44	防災・安全	通番 98
施策	441	都市の防災機能の向上	
5年後の目標		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	防災重点農業用ため池の安全管理事業		会計	款	項	目	13,277,000	農林振興課
			一般	6	1	4		
事業の概要								
ため池の決壊による災害から市民の生命と財産を守るため、決壊した場合に人的被害を与えるおそれのあるものとして指定された「防災重点農業用ため池」に対し劣化状況評価を行うとともに、府が行う地震・豪雨耐性評価の結果とあわせ、防災工事が必要と判断された防災重点農業用ため池については、計画的に必要な防災工事を実施します。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	防災重点農業用ため池の劣化状況評価の実施池数(全13池)				単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0(令和元年度)	目標	劣化状況評価の実施	劣化状況評価の完了	—	—	—
		実績	92.3				
		<ul style="list-style-type: none"> 劣化状況評価を市で8池実施し、地震・豪雨耐性評価(劣化状況評価も含む)を府が3池実施し、防災重点農業用ため池の現状を調査しました。 芦原池は今年度、改修工事に向けての調査設計(劣化状況評価も含む)を行い、ため池の現状を調査しました。 				防災重点農業用ため池(金原寺池) 	

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 防災重点農業用ため池の状態を把握するため、劣化状況評価を行いました。 芦原池の改修工事に向けて、ため池をの現状を把握するため調査設計を行いました。 防災重点農業用ため池の整備に係る市の方針を地元ため池管理者に説明し、理解を得ました。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 防災工事等のため池改修工事を実施する場合、大規模な工事となる為、技師等の人員体制を整える必要があります。 			

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 地震・豪雨耐性評価が終了していない防災重点農業用ため池については、京都府と協議をして順次進めます。 劣化状況評価及び、地震・豪雨耐性評価の結果を基に必要な対策を行う為、京都府やため池管理者と協議を進めます。 防災工事実施のための人員体制等は庁内で検討を行い、スムーズに工事が行える体制を検討します。

分野	44	防災・安全	通番 99
施策	442	災害時に生きるネットワークづくり	
5年後の目標		災害が発生しても適切な対応ができるよう、様々な主体が、平常時からタイムラインに沿った行動計画の策定や、訓練において協働し、知識普及と意識啓発に努めている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	地域防災力向上事業		会計	款	項	目	1,328,597	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
「長岡京市防災の日」に全小学校区において、要配慮者や女性の視点に立った避難所運営等、より実践的な防災訓練を実施することで地域の防災力の向上を図ります。また、研修会を実施し、地域の中に防災知識と地域事情に熟知した防災リーダーを育成するとともに、自主防災組織の充実と自主防災組織が未組織である地域へ組織化に向けた働きかけを強化します。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	防災訓練参加人数				単位	人
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	4,259 (令和元年度)	目標	4,300	4,500	4,700	4,900	5,000
		実績	70				
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため市主催の防災訓練は中止となりましたが、「長岡京市防災の日」同日に長岡第五小学校にて地域コミュニティ協議会主導のもと防災訓練が実施されました。 自主防災組織等に出前ミーティングを実施し、防災力の向上を図りました。 					避難所運営訓練 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—	—
C (評価)	達成度合	D: 目標を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市主催の訓練は中止となりました。 地域の防災力の向上を図るため、自主防災組織や小中学校など21カ所で防災意識啓発やマンホールトイレ設営体験、救急救命講習などを実施しました。
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響で訓練等が実施できず、地域コミュニティ協議会や自主防災会の活動が希薄になっています。 		

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
	2: 進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き全校区一斉開催を目指し、コロナ禍においても実施できる防災訓練を検討します。 自主防災組織や自主防災組織が未組織な地域への研修・講座等がコロナ禍においても十分に実施できるよう方法を検討します。

分野	44	防災・安全	通番 100
施策	442	災害時に生きるネットワークづくり	
5年後の目標		災害が発生しても適切な対応ができるよう、様々な主体が、平常時からタイムラインに沿った行動計画の策定や、訓練において協働し、知識普及と意識啓発に努めている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	災害ボランティアセンター充実事業		会計	款	項	目	6,500,000	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
市と災害ボランティアセンターが連携して防災に関する研修会等を開催し、新たな活動者の発掘と育成を行います。 各小学校区で新たな活動者とコミュニティ協議会、自治会、自主防災会等と専門職が協働し、災害時の活動についての取り組みを実施します。								


令和3年度の取組							
D (取組)	指標	災害ボランティアセンター設置運用訓練実施地域数				単位	団体
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	0(令和2年度)	目標	1	2	3	4	5
		実績	0				
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら職員向け災害ボランティアセンター設置運用訓練をバンビオにて行いました。 住民向けの防災講演会や学校向けの防災学習、パートナーシップ協定先に災害ボランティアセンターの周知・啓発を目的とした講座を行いました。 防災教育推進のためボランティアと一緒にチャレンジブックを2,500冊作成し、防災学習を受けた8校の児童などに配布しました。 					小学生向けチャレンジブック		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価			
令和3年度の達成状況			
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド
			—
C (評価)	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、小学校にて実施予定であった災害ボランティアセンター設置運用訓練は中止となりましたが、時期をずらし、職員及びボランティア等と設置運営訓練をバンビオにて実施しました。 ・昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響により訓練や研修会、講座等も自粛や中止となりました。コロナ禍での新たな活動手段や方法が必要となります。 	

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	2: 進め方の改善の検討が必要 ・災害ボランティアセンター設置運用訓練について、コロナ禍においても対応できるより良い訓練方法を検討します。 ・新たな活動者の発掘として出前授業や研修を通じて特に学生層、若年層を意識して発掘と育成を行います。

分野	44	防災・安全	通番 101
施策	442	災害時に生きるネットワークづくり	
5年後の目標		災害が発生しても適切な対応ができるよう、様々な主体が、平常時からタイムラインに沿った行動計画の策定や、訓練において協働し、知識普及と意識啓発に努めている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	災害時要配慮者支援体制づくり		会計	款	項	2,829,214	社会福祉課
			一般	3	1		
事業の概要							
災害時にひとりで避難することが困難な人(災害時要配慮者)の把握と避難支援に向けた個別計画の策定に取り組み、災害時要配慮者に対する地域での避難支援体制の整備を進めます。							


令和3年度の取組								
D (取組)	指標①	制度対象者への案内返答率					単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	50.0	55.0	60.0	65.0	70.0	
		実績	85.0					
	8(令和2年度調査)	目標						
		実績						
		実績						
	指標②	避難支援プラン(個別計画)の策定率(避難支援者が1人以上いる災害時要配慮者の率)					単位	%
	現状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7	
		目標	55.0	56.0	57.0	58.0	59.0	
実績		47.0						
53.4 (令和元年度調査)	目標							
	実績							
	実績							
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の一斉調査では、この1年間で新たに制度の要件に当てはまることとなった人に加え、過去の調査で制度に該当しないとされていた人にも制度案内と登録希望の意向確認書を個別に郵送にて案内するとともに、広報紙、FMラジオ、自治会回覧などにより広く制度を周知しました。 調査方法は、これまで制度に該当しないと判断された人は返信不要とした方法を、該当する・しないに関わらず全員に返信してもらうこと、送付用封筒は独自の色とデザインで案内や市民にわかりやすく回答しやすい様式に変更したことと地域の福祉支援機関の協力があって、返信率並びに避難支援ニーズの実態把握の精密性の向上を図りました。 調査後は、民生児童委員の協力のもと、登録希望者と既存登録者へ戸別訪問を行い、最新の要配慮者名簿を作成し、民生児童委員と自治会・自主防災会へ提供しました。 制度の説明や個別避難支援プラン(個別計画)の作成方法や取り組みについて希望された自治会へ防災担当と連携し出前講座を行いました。 高齢者や障がいのある人で災害時に避難支援が必要な人が事前の名簿登録につながるように、ケアマネジャーなどの福祉支援者に対して制度の説明と意見交換を行いました。 							デザインを刷新した調査用封筒	
								

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和3年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	B:目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法を変更したことや制度周知活動を強化したことで返信率は大幅に向上しました。 日頃個別に支援サービスで対応されている福祉関係機関の協力と情報連携による効果がありました。 災害時要配慮者の避難支援に関する情報が行政に集約されるとともに、自治会・自主防災会等において平時の見守り等にも活用されるよう、個別に地域との情報共有ができました。 一部の自治会未組織地域で、民生委員を中心に防災意識が高まりと避難に支援が必要な人への支援方法の検討が進む中で避難支援プラン(個別計画)作成に町内会単位の取り組むことができ福祉と防災の連携で地域支援と情報共有ができるようになりました。 	
		課題等		<ul style="list-style-type: none"> 登録希望の意向確認書について返信がなかった人等への対応について検討が必要です。 改正災害対策基本法に対応した災害時の避難行動支援体制の検討が必要です。 コロナ感染防止による避難訓練の中止もあり避難支援プラン(個別計画)作成に取り組む自治会へのアプローチが必要です。 	

次年度以降の対応		
A (行動)	方向性	対応策等
1:計画通りに進めることが適当		<ul style="list-style-type: none"> 登録意向確認調査について、前年度に確認書の返信がなかった人へのフォローアップの検討を行います。 災害時要配慮者に該当する人が名簿登録できるよう個別案内通知の他、福祉サービス等で支援する関係機関との連携強化と取組み方の検討を行い必要な支援が必要な人に届くように広報活動を行います。 避難支援プラン(個別計画)作成の取り組み推進のため、既実施自治会の取り組みが広がるよう自治会・自主防災会へ福祉と防災の連携してアプローチします。 避難支援プランの作成を検討する自治会等に対して出前講座等による制度説明やプラン作成方法を提案する等で取り組みを支援します。

分野	44	防災・安全	通番 102
施策	443	安全・安心な地域づくり	
5年後の目標		自助、互助・共助、公助が相互に補完しあい、防犯・交通安全など、地域の生活の安全・安心をつくり守る力が強まっている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	安全・安心地域見守り ネットワーク事業		会計	款	項	目	28,468,623	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
防犯カメラシステムの適正な管理・活用を図ることにより、社会全体の見守り機能を強化します。また防犯委員会の活動や地域住民の自主的な防犯活動への支援を行うとともに、長岡京市安全・安心まちづくり協定に基づく長岡京市・向日町警察署の相互連携により、安全・安心が実感できる住みよいまちづくりを推進します。								

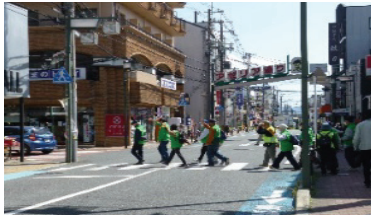
令和3年度の取組							
D (取組)	指標	市内における刑法犯認知件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	297(令和元年度)	目標	前年を上回らない	前年を上回らない	前年を上回らない	前年を上回らない	前年を上回らない
		実績	188				
令和2年度の実績は212件でしたが、以下の取組により令和3年度の実績は188件となりました。 ・警察による事件・事故の捜査64件に協力し、防犯カメラシステムの適切な管理と活用を行いました。 ・防犯委員と連携して防犯カメラ設置エリアを示す啓発看板を増設するなど、地域の自主防犯活動に取り組みました。 ・防犯委員による青色回転灯パトロール車を活用した巡回及び特殊詐欺被害防止の啓発を12回実施しました。					見守り機能付き防犯カメラ イメージキャラクター 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
		令和3年度の達成状況		
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	
		市内での窃盗犯認知件数	新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響あり	190
	達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	・警察への捜査協力、防犯灯等の設置や各防犯委員・地域の自主防犯活動の取り組みにより、前年に比べ件数を減らすことができました。 ・新型コロナウイルス感染症により外出自粛が続いていることも件数が減った要因と考えられます。
課題等	・刑法犯の認知件数は減少傾向にありますが、新型コロナウイルス感染症による影響があるため、今年度の取り組みのみでどれだけ件数を減少できたかは不明瞭な部分があります。 ・認知件数減少の一方で特殊詐欺被害は増加傾向にあります。警察や防犯委員と情報共有しながら注意喚起・啓発していく必要があります。			

次年度以降の対応	
A (行動)	方向性
	1:計画通りに進めることが適当
	対応策等 ・引き続き警察への捜査協力、防犯灯等の設置や各防犯委員・地域の自主防犯活動に取り組めます。

分野	44	防災・安全	通番 103
施策	443	安全・安心な地域づくり	
5年後の目標		自助、互助・共助、公助が相互に補完しあい、防犯・交通安全など、地域の生活の安全・安心をつくり守る力が強まっている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	交通安全普及事業		会計	款	項	878,784	交通政策課
			一般	8	2		
事業の概要							
交通事故の減少を図るため、交通ルールの遵守、マナーを普及するための交通安全教育や、啓発活動を行います。 安全で快適な自転車の利用の促進に関する条例及び自転車活用推進計画に基づき、自転車の安全教育や啓発の更なる強化を図ります。 また、新たな「ゾーン30」の検討を進めます。							

令和3年度の取組							
D (取組)	指標	市内交通事故件数				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	3	4	5	6	7
	107(令和元年度)	目標	102	97	92	87	83
		実績	63				
<ul style="list-style-type: none"> 千葉県の特号路での重大事故が発生後交通安全確保の対策として、関係行政機関による道路や安全施設の点検や協議を行いました。 安全教育は、近年、信号機のない横断歩道を横断中の事故が多いことから、特に高齢者を対象に、横断するときは手を挙げる「ハンドサイン1. 2. 3運動」を推奨する現場指導や室内での交通教室を行いました。 市民要望があった場所や交通事故多発場所等において、交通ボランティアや警察と協同で、ハンドプレートやマイクを活用した広報啓発活動を行いました。 					横断歩道では手を挙げて「ハンドサイン」 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和3年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		市内交通事故発生 件数・負傷者数	令和3年中の市内交通事故(人身事故)発生件数と、市内交通事故負傷者数は、令和2年(58件)と比べてともに微増しています。	
達成度合	A:目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年中の市内交通事故(人身事故)発生件数は63件、負傷者数は67人で、目標値を大幅に上回りました。 令和3年中の市内交通事故死者は1人で、前年と比べて増加しました。 死傷者68人のうち、最も多い歩行中等と自動車乗車中の事故は、全体に占める割合がそれぞれ26%となっています。また、歩行中等事故のうち、道路横断中の割合が72%と高く、横断歩道横断中に交通死亡事故が発生しています。 	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 死傷者68人のうち、高齢者の占める割合は、他の年齢層に比べて高く、高齢ドライバーと高齢歩行者に対して、より効果的で適切な交通安全教育や対策の手段・手法の確立が課題です。 市自転車活用推進計画策定による道路管理者の自転車通行環境整備に合わせ、自転車利用者への交通ルール遵守とマナーを向上させるよう継続的な取組みが必要です。 			

次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1:計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全教育については、体系的、計画的に行うことが望ましく、引き続き、知識や経験がある交通教育指導員から、幼、小・中学校や、高齢者団体等へ交通安全教室やタイムリーな情報・資料提供を行っていきます。 高齢運転者や高齢歩行者の対策について、引き続き関係機関や団体と協同によるマナー向上街頭啓発活動や道路管理者と連携し、道路環境整備による対策を行っていきます。